一人ひとりが当事者として取り組む「授業づくり」と「組織づくり」のリーフレット

～第Ⅱ期学力向上推進拠点校の「日々の挑戦」～

芦屋町立芦屋中学校

築上町立椎田中学校

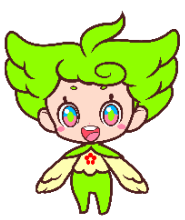
志免町立志免東中学校

嘉麻市立山田中学校

大刀洗町立大刀洗中学校

大川市立大川桐薫中学校

はじめにこちらをご覧ください！



福岡県教育委員会
令和5年2月

授業づくりのポイント②

授業チェックリストから重点項目を設定し、共通理解に基づく共通実践を日常的に行う。

事例１ ICTを効果的に活用した実践（芦屋町立芦屋中学校）

重点項目：③自力解決、④考えの広がりや深まり、⑧ICT活用

学習過程	学習活動	ねらい	子どもの姿（つぶやき）
見通す	めあて	見通しをもたせ，問題解決への意欲化を図ることができるようにする。	＊問題を見いだし，解決方法を立てている。 「なんで」（疑問） 「やってみたい」（意欲） 「できるようになりたい」（あこがれ）
つくる	一人学び	既習事項を用いるなどして，自分の考えを持つことができるようにする。	＊情報を基に自分の考えを表現している。 「わかった，わからん」（自覚）
広げる深める	協働学び	各自の考えをもとに，交流活動を行い，考えを広げたり深めたりできるようにする。	＊多様な考えを理解している。 「なるほど」（納得） 「（他の考えを聞いて）いいやそれでも」（こだわり） 「わかった，わからん」（自覚） 「できた」（達成感） 「すごい」（驚き）
まとめる	まとめ	めあてに対して整合性のあるまとめを行い，答えや結論を明確にできるようにする。	＊集団としての考えを形成している。 「できた」（達成感）
生かつなぐ	振り返り	学習の点検・評価活動として，日常生活を振り返ったり，問題を解いたりして，学びの変容を自覚し，活用の内容や方法の良さを実感できるようにする。また，学んだことや問題意識などを次につなげられるようにする。	＊振り返りによって学びの意義や価値を実感し，次の学びにつなげている。 「自分も結構やればできる」（自己効力感） 「もっと」（向上心）

【芦中授業プロセス（１単位時間の学習の流れ）】

「つくる」段階でのICT活用

【生徒】SKYMENUの発表ノートを活用することで、書いたり消したりする作業が軽減され、試行錯誤しながら自分の考えをつくりやすくなる。
【教師】生徒の画面を教師用タブレットに並べて表示することで、生徒全員の学習状況が把握しやすくなる。

「広げる・深める」段階でのICT活用

【生徒】複数の考えを表示した画面を操作したり、比較したりすることで、共通点や差異点に気付きやすくなる。
【教師】表示した画面をもとに意図的に指名したり、「違いは何か」「まとめると何がいえるか」などの問い返しをしたりすることで、生徒の考えが整理しやすくなる。

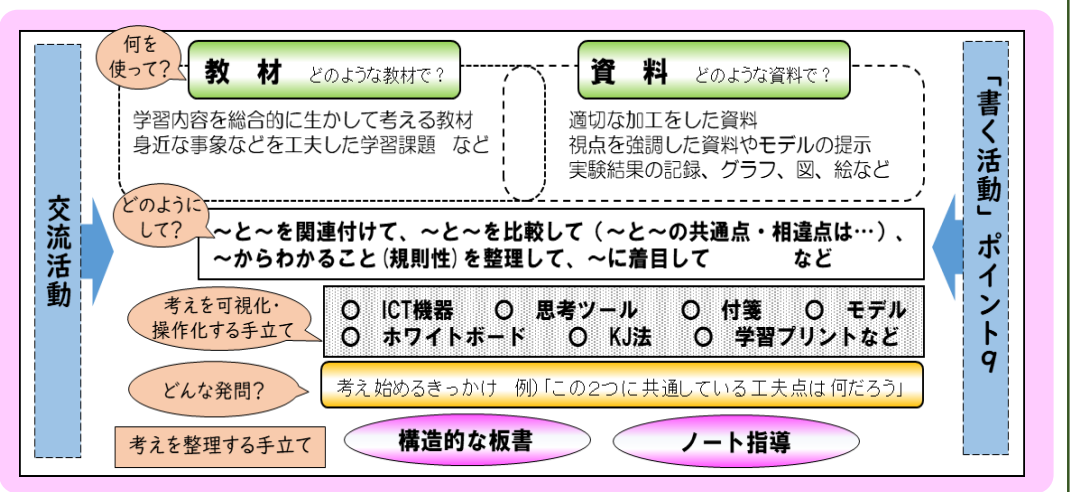
事例２ 展開段階での思考活動と書く活動とを関連付けた実践（嘉麻市立山田中学校）

重点項目：④考えの広がりや深まり

授業の「思考活動の段階」の充実

参考：「書く活動」ポイント９ ⇒

生徒が他者と関わりながら、考えを広げたり深めたりすることができるようにするために、教師は思考活動の目的や内容を明確にして授業を構想する。特に、教材や資料の選定、働かせる見方・考え方、考えを可視化・操作化する手立てなどを大切にし、「書く活動」では条件に沿って書くことを重視する。



【授業のグランドデザイン「学ナビ（まーなび）」と思考活動の構造】

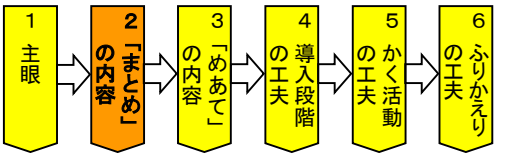
授業づくりのポイント①

教師が説明することを精選し、「生徒が考え、表現する活動」を充実させる。

事例１　目標と指導と評価の一体化の実現を目指した実践（大川市立大川桐薫中学校）

授業のゴール像を明確にした授業構想

右の【授業づくりの流れ】のように、主眼から授業の「まとめ」を明確にし、それに向かう「めあて」や学習活動の妥当性を検討する。



【授業づくりの流れ】

１「問い」を引き出す活動（つかむ）

前時や本時を比較できる資料や実物の提示等により、生徒から「なぜ」といった具体的な「問い」を引き出す。

２ かく活動と交流活動（ふかめる）

目的（出し合い、比べ合い、高め合い）を明確にした発問や指示により、生徒がかいたことを根拠として、交流活動のゴールを意識できるようにする。

３ ふりかえり活動（まとめる）

観点に基づく振り返り内容について、生徒の成長や進歩の様子を具体的に示して褒めることにより、生徒に自己の学びの変容を自覚化させる。

【観点の例】（わ）わかったこと、（が）がんばったこと
（と）友達の考え、（も）もっと学びたいこと

段階	活動	ポイント	生徒の姿
つかむ	前時学習のふりかえり	・授業報告を行わせる ・本時のめあてへの意欲を高める	・前回の授業のめあては○○でした。まとめを○○としました。
	めあて 主体的	・既習や既有体験と不十分さ，事象の変化や目指すゴール像からめあてをつくる ・まとめにつながるめあてになっているか	・なぜ○○になるのかなぁ ・ほんとうに○○なのかなぁ ・いつも○○になるのかなぁ ・○○を説明しよう ・○○ができるようになろう
ふかめる	かく活動	・自分の考えをかく ・判断の理由をかく	・…になるのは○○だ ・この考え方は○○だ ・私は○○だと思う
	交流活動 対話的	・自分の考えをもっているか ・自分の考えと他の考えを比較し，同じ部分や異なる部分に気づくか ・わからないことを質問しているか ・自分の考えを説明したり，考えを修正したりするペアやグループでの話し合いが設定されているか	・なるほど，そうだったのか ・こんな方法もあるのか ・そっちのほうがわかりやすいな
まとめる	まとめ 深い学び	・めあてのこたえになっているか ・性質，方法，手順 ・学習指導要領の内容との関連	・○○になるのは…だからだ ・○○になるには…すればよい
	ふりかえり 主体的	・１時間の学びをふりかえり ・生徒の成長に気付けるか ・授業前の姿と授業後の姿を比較	・○○がわかったぞ ・○○がわからなかったなぁ ・もっと○○について調べてみたい ・他の場合はどうなっているのかなぁ

【１単位時間の学習過程のモデル】

事例2 「つなぐ」をテーマにした学習過程に基づく実践（志免町立志免東中学校）

１ 学ぶ意欲を喚起する導入

生徒から引き出す意欲が、めあてに向かうものとなるような発問や課題の提示を工夫する。

２ 学ぶ意欲を継続させる展開

生徒が多様な見方・考え方に触れながら、学ぶ意欲が継続するような他者との協働的な活動を位置付ける。

３ 学ぶ価値を実感させる終末

「か（かくとく）・す（すばらしさ）・や（やってみたい）」の3つの視点での振り返り活動を充実する。

学習過程		学ぶ意義・生徒の思考	トーク活動	ICT
導入 めあて 見通し	これまでの 自分とつなぐ	自分の現状は（何を学習してきたのか） （何ができるのか，何を知っているのか） 自分の課題は（何を，どうするべきなのか）	セルフ ペア	
展開	他の人とつなぐ	多様な，新たな見方・考え方 協働することの意義・効果	ペア グループ 全体	
まとめ 振り返り	これからの 自分とつなぐ	めあてに対する学習活動（内容）の終結・ゴール 新たな疑問・問い・気づき 次時以降への意欲　（つなげたい・いかしたい・もう一度やりたい） 活用・応用への意欲（実生活でも，他の教科でも）	セルフ 学ぶ価値	

【「つなぐ」学習のモデル】

授業づくりのポイント③

1単位時間の授業だけでなく、単元全体を見通した授業づくりについて検討し合う。

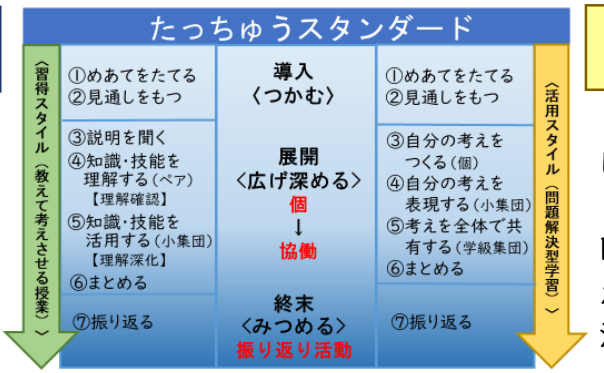
事例Ⅰ 「習得スタイル」と「活用スタイル」を位置付けた実践（大刀洗町立大刀洗中学校）

教科の特性や主眼を踏まえ、単元の中に2つの授業スタイルを効果的に位置付け、生徒が基礎的・基本的な知識や技能を身に付け、それをもとに思考・判断したことを表現できるような授業を目指す。

習得スタイル

新たな知識・技能を習得する際に用いる。

教師が「教える」ことと生徒が自ら「考える」ことのバランスを重視した「教えて考えさせる授業」



活用スタイル

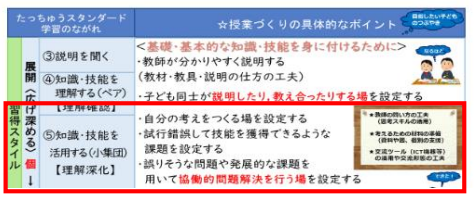
習得した知識や技能を活用して問題解決する際に用いる。

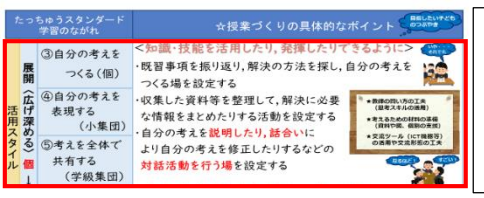
生徒が自ら課題を発見し、既習の内容と関連付けて、考えたり表現したりする「問題解決的な授業」

【大刀洗中学校の2つの学習過程（たっちゅうスタンダード）】

協働学習の位置付け

生徒が考えを広げたり深めたりできるようにするため、どちらのスタイルも、協働学習を位置付け、話し合う目的や内容等を明確にして支援する。





【2つのスタイルの展開段階における協働学習】

協働学習の質を向上させるためには・・・

ポイント　☆協働の目的と内容を明確にしましょう！

（場を設定すれば、考えが広がるわけではない）

・目的を達成するためには、場の設定＋何が必要か。

・何のために話し合うのか。（班での答え合わせや意見を順番に述べるだけでは△）

・個の考え、疑問が協働学習を通して、広がったり深まったりした状態へ向かうための手立ては？特に、どんな問いがあると思考が進むか。

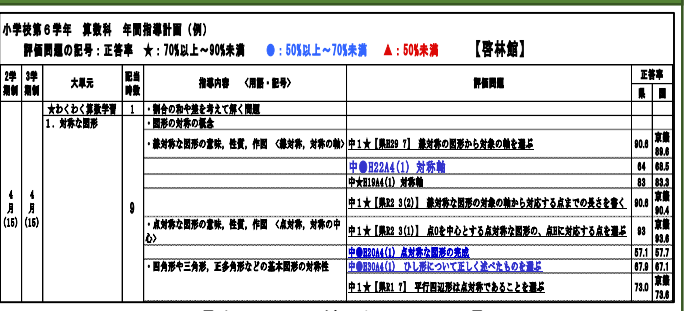
・協働学習後の生徒の考えは、まとめにつながる内容になっているか。

【協働学習の際に大切にしたいこと】

事例2 全国学力・学習状況調査問題等を活用した実践（築上町立椎田中学校）

年間指導計画への位置付け

全国学力・学習状況調査問題等を評価問題として位置付けた年間指導計画例（京築教育事務所作成）を参考に、調査問題や入試問題等を計画的に活用し、全教科において根拠を明確にした「書く活動」に取り組む。



小学校第６学年　算数科　年間指導計画（例）

評価問題の記号：正答率　★：70%以上～90%未満　●：50%以上～70%未満　▲：50%未満　【蓉林館】

2学期制	3学期制	大単元	配当時数	指導内容　〈用語・記号〉	評価問題	正答率	
						県	国
4月(16)	4月(16)	★わくわく算数学習	1	・割合の表や図を考えて解く問題			
		1．対称な図形	9	・図形の対称の概念			
				・線対称な図形の意味，性質，作図 〈線対称，対称の軸〉	中１★【県H29 7】 線対称の図形から対称の軸を選ぶ	90.0	実績 89.0
					中●H22A4（1） 対称軸	64	60.5
					中▲H19A4（1） 対称軸	83	83.3
				・点対称な図形の意味，性質，作図 〈点対称，対称の中心〉	中１★【県H23 3(2)】 線対称な図形の対称の軸から対応する点までの長さを書く	90.0	実績 90.4
					中１★【県H23 3(1)】 点Oを中心とする点対称な図形の、点Bに対応する点を選ぶ	93	実績 93.0
					中●H20A4（1） 点対称な図形の完成	57.1	57.7
				・四角形や三角形，正多角形などの基本図形の対称性	中●H30A4（1） ひし形について正しく述べたものを選ぶ	67.0	67.1
					中１★【県R1 7】 平行四辺形は点対称であることを選ぶ	73.0	実績 73.0

【年間指導計画の例】

【Ⅰ型】教材として活用

授業で生徒の考えを深める教材として活用し、思考力、判断力、表現力等の育成を目指す。

【Ⅱ型】授業の評価問題として活用

授業の主眼の達成状況を評価する問題として活用し、指導方法等の改善にいかす。

【Ⅲ型】単元の評価問題として活用

単元の目標の達成状況を評価する問題として活用し、補充学習等の改善にいかす。

１節　（1～10/18）
一次関数【知①②③④思①主①】
２節　（11～14/18）
一次方程式と一次関数【知⑤思①】
３節　（15～18/18）
一次関数の活用
一次　具体的な事象から取り出した２つの数量の関係を一次関数とみなし考察する。
【知②思①主①②】
二次　２数の関係を一次関数として捉え、表、式、グラフに表して問題を解決する。
【思①主①】
三次　身近な事象な一次関数として数学的に解釈し、表，式，グラフと関連付けながら問題を解決する。
【思②主③】

一次では、具体的な事象の２数の関係に着目して一次関数とみなして考察し、問題を解決する力を高めるために、Ⅰ型で活用する。**平成29年度全国学力学習状況調査数学B問題3**

二次では、2数の関係を一次関数と捉え、表、式、グラフに表せるようにするために、Ⅱ型で活用する。**平成19年度全国学力学習状況調査数学A問題12**

三次では、身近な事象を一次関数として数学的に解釈し、表、式グラフと関連付けながら問題を解決するために、Ⅰ型で活用する。**平成31年度全国学力学習状況調査数学6**

【数学科の学習指導計画の例】

組織づくりのポイント①

個々の教師の指導力が分散しないよう、組織づくりで取組の方向性を揃える。

事例１　3つのマネジメントによる、役割を明確にした組織運営（志免町立志免東中学校）

運営委員会、研究推進委員会、教科主任会、教科部会において、3つのマネジメントの充実を図ることにより、各組織の役割を明確にし、ビジョンや理念等を全教職員で共有する。

トップ・マネジメント（校長）

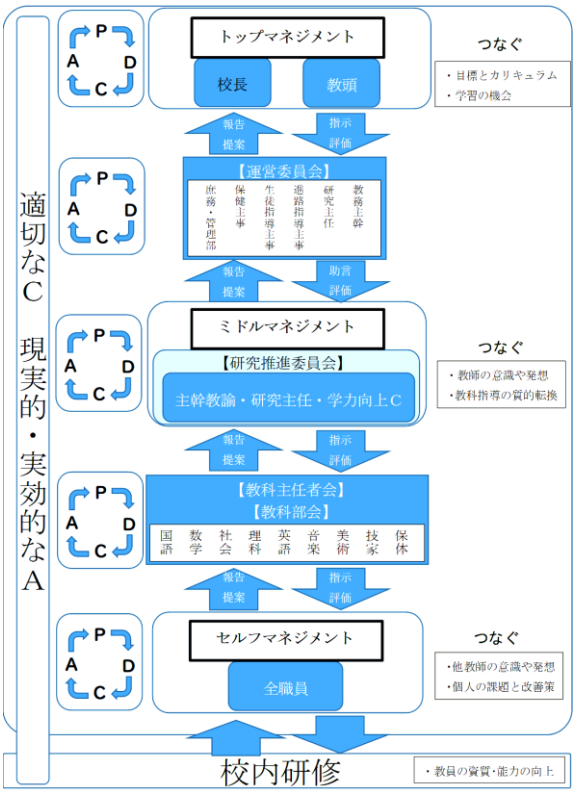
校長は、重点目標と教育課程との関連を示すグランドデザイン（ビジョンと全体像）を丁寧に説明し、全教職員や保護者、地域の理解と納得を得ることができるようにする。

ミドル・マネジメント（主幹教諭、研究主任等）

ミドルリーダーは、教科間の学習内容のつながりが見える指導計画を作成したり、授業研修を伴う校内研修を運営したりするなど、ビジョンを具体化する。

セルフ・マネジメント（個々の教師）

個々の教師は、学校の重点目標等を踏まえて、自分の目標を設定し、自己評価や他者評価に基づき、日常的に改善を図る。



【組織図】

事例2　部会のスリム化による円滑な組織運営の実践（芦屋町立芦屋中学校）

取組の浸透・徹底を図るため、次のような工夫をし、教科部会までつなげる。

研究推進委員会のスリム化

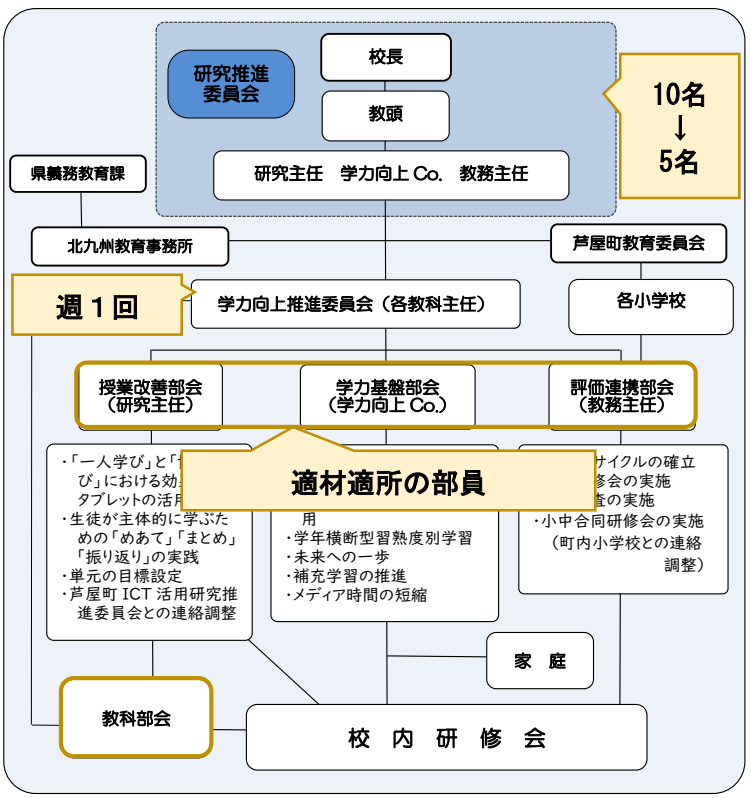
構成員を当初の10名から5名（校長、教頭、研究主任、学力向上Co、教務担当）とし、随時、委員会を開催できるようにすることで、機動力を高める。

学力向上推進委員会の定期的開催

研究推進委員会から出された方向性やビジョンを各教科主任からなる学力向上推進委員会で、週に1回検討し、具体化する。

教職員の特性を踏まえた部会の構成

教職員の適正（ICT操作が得意、教職経験が豊富、データ処理が迅速等）を踏まえ、3部会（授業改善部会、学力基盤部会、評価連携部会）に部員として振り分け、各部会の充実を図る。



【組織図】

組織づくりのポイント③

授業を評価し合ったり、悩みを相談し合ったりできる機会を設け、教師の同僚性を高める。

事例１　相互授業参観システムに基づく実践（大刀洗町立大刀洗中学校）

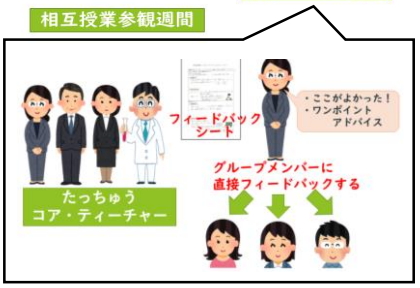
相互授業参観システムの構築

相互授業参観システムは、全体研修（授業づくりのポイント等の共有）、日常の授業を見合う相互授業参観週間（共有内容の実践）、個別のフィードバック（実践の振り返り）の一連の取組であり、教員の指導技術や授業改善の意欲の向上を目指す。

【相互授業参観システムのイメージ】

たっちゅうコアティーチャーによる個別のフィードバック

校内で選ばれた授業改善の中核となる教師（たっちゅうコアティーチャー）が、授業参観後に、「共有内容の実践」と「基本的な指導技術」についてフィードバックシートにまとめ、個に応じた授業改善へのアドバイスをする。



【個別のフィードバックのイメージ】

【たっちゅうカフェの約束事と様子】

たっちゅうカフェの開催

学力向上を含めた教育活動全般をテーマに、疑問や考えを自由に出し合い、気軽に語りあうことを通して、教師一人ひとりの取組への参画意識を高めることをねらい、定期的に開催する。

事例2　模擬授業による授業力を高め合う実践（大川市立大川桐薫中学校）

同教科教員での授業検討会【専門性を発揮した授業づくり】

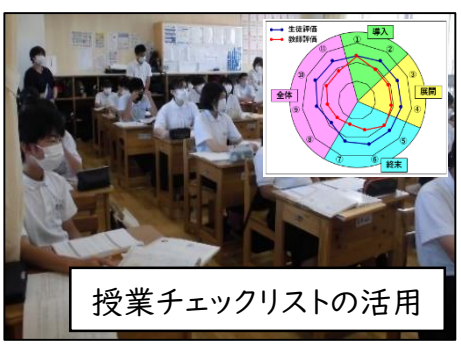
学習指導要領解説や教科書等を熟読し、学習内容を解釈しながら、単元で育てる資質・能力、教材、単元計画、主眼等を明確にする。教育事務所等と連携し、地域のコア・ティーチャーも交えた検討会を実施し、特に、授業の「ゴール設定」の妥当性について十分に協議する。

異教科教員での模擬授業【実践を意識した授業づくり】

生徒の立場から授業を考え、資料の提示や板書、発問といった教師の手立てに関わることについて、「生徒の実態と乖離していないか。」「発問は深く考えるきっかけになっているか。」など、授業を実践レベルで具体化する。その上で、授業チェックリストを用いて相互に授業を参観し合い、授業を磨き合う。

【コア・ティーチャーとの検討会の様子】

【模擬授業の様子】



【相互授業参観の様子】

組織づくりのポイント②

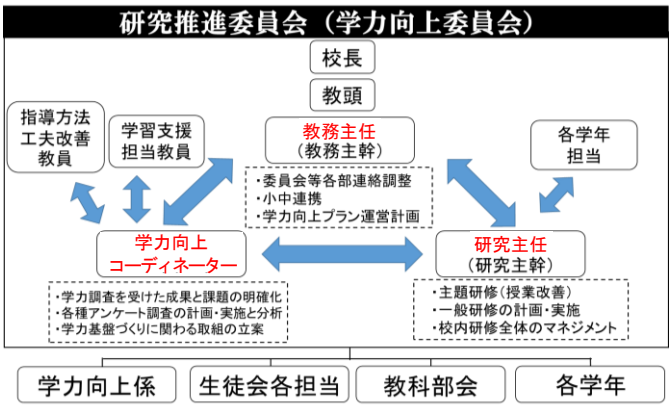
各部会のリーダーが定期的に取組の進捗を確認し、年間を見通した運営をする。

事例１　年間4回の検証改善サイクルに基づく実践（嘉麻市立山田中学校）

ミドルリーダーを核に据えた委員会の運営

研究推進委員会は、教務担当教員、学力向上Co、研究担当の3人のミドルリーダーを中核に据えて、役割分担を明確にして運営する。

取組の進捗を随時確認し、改善策を検討したり、担当教員同士の連携をしやすくしたりするため、定例会を時間割に週１回位置付け、開催する。

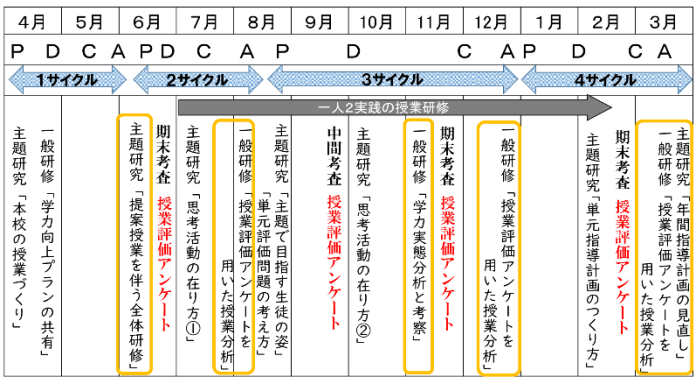


【研究組織図】

年間4回の検証改善サイクルの確立

実効性の高い検証改善サイクルにするため、年間4サイクルを計画し、特に、P段階とC段階に校内研修を位置付ける。

P段階では、取組の目的や意義、内容等について全教員で共有を図る。C段階では、各調査結果に基づく生徒の実態把握と、全教員で全国調査問題に取り組み、育成する資質・能力を共有する。



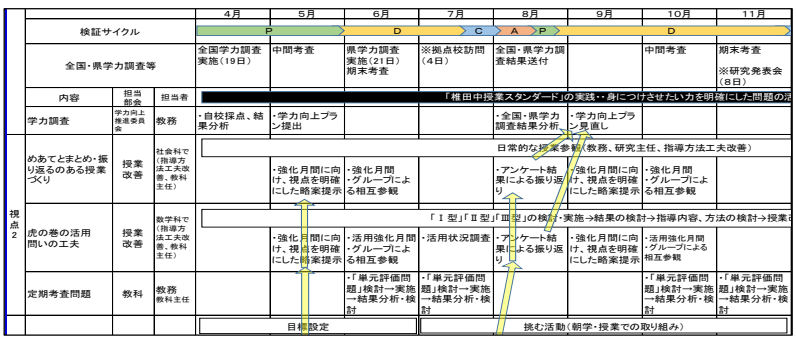
【校内研修を中心に抜粋した検証改善サイクル】

事例2　学力向上検証改善ロードマップを活用した実践（築上町立椎田中学校）

ロードマップに基づく計画的な実践

学力向上プランの各視点に基づく【検証改善ロードマップ】を作成し、年間スケジュールや各取組の関連等を「見える化」し、全教職員が全体像を意識できるようにする。

取組ごとに担当部会や担当者を決め、「いつまでに、誰が、何をするのか。」を明記することで、担当者の自覚と責任を促すとともに、担当同士の連携や協力を大切にする。



【学力向上プランを基にした検証改善ロードマップ】

通信等による研修内容の意識付け

教科部会後や校内研修後等は、【学力向上だより】を発行することで、全教員が研修内容を振り返ることができるようにする。

作成に当たっては、研修内容のポイントやアンケート結果等を具体的に示すことで、全教員の授業改善に対する意識を醸成する。

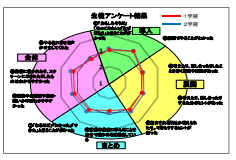
○授業評価アンケート結果から

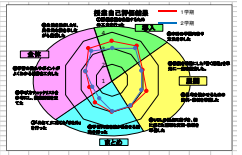
・「めあて」と「まとめ」「振り返り」を位置付けた授業づくり
・身につけさせたい力を明確にした問題の活用

この２点を中心とし、「思考力・判断力・表現力等の育成」をめざしてきました。そして、それを見取るための２回目の授業評価アンケートを実施しました。

２学期の授業評価アンケートの結果を見ると、１学期とほとんど変わっていませんが、若干の伸びが見られます。一方、教師の自己評価の結果を見ると、軒並み数値が下がっています。「授業改善が進展しているのか、停滞しているのか…。」先生方はこの結果をどう見ますか？

先生方が自分自身の授業を厳しい目で見るようになった結果なのであれば、授業改善は進展していると捉えてよいかと思います。しかし、結果を見るだけで終わってしまい、何も変えようとしないのであれば、授業改善は停滞していると言えるのではないでしょうか。





○授業評価アンケート結果から

	項目	R２（平均）	R３（１学期）
1	「おもしろそうだ」「やってみたい」「なぜだろう」と思うことが多かった。	3.08	3.29
2	授業でやること（めあて）がわかった。	3.34	3.63
3	考えたり、話し合ったりしたことを書く活動や時間があった。	3.10	3.40
4	考えたり、話し合ったりするためのヒント（資料など）があった。	3.08	3.48
5	努力すれば何とか答えられたり、できたりするヒント（資料や道具など）があった。	3.11	3.52
6	授業の最後に学んだこと（わかったこと、できたこと）を自分で確かめる活動（書く、発表する）があった。	2.78	3.26
7	「なるほど」「わかった」「できた」と思うことが多かった。	3.16	3.43
8	先生の授業中の説明や指示・問いかけはわかりやすかった。	3.24	3.58
9	黒板に書かれたり、スクリーンに示されたりしたものはわかりやすかった。	3.25	3.63
10	やる気にさせる声かけ（励ましや賞賛など）をしてくれた。	2.99	3.34

【表１】

【表１】は、生徒による授業評価の昨年度平均と本年度１学期の結果を比較したものです。一目瞭然！！全ての項目において大きく評価を高めています。先生方の「わかってもらいたい、できてもらいたい」という想いのつまった授業が、ちゃんと生徒に伝わっているんだなと強く感じました。

【表２】は、教師の自己評価の昨年度平均と本年度１学期の結果を比較したものです。学力向上推進拠点校事業においては、

①「めあて」「まとめ」「振り返り」のある授業

②調査問題等の活用 and 問いの工夫のある授業展開

を取り入れた授業づくりをお願いしてきました。ほとんどの項目の評価が高くなっており、先生方の授業改善の跡が窺えます。そのなかでも、項目２・６・７が①「めあて」「まとめ」「振り返り」のある授業に関わる

全国学力・学習状況調査から見える「学力に関するイメージ図」

児童生徒質問紙調査

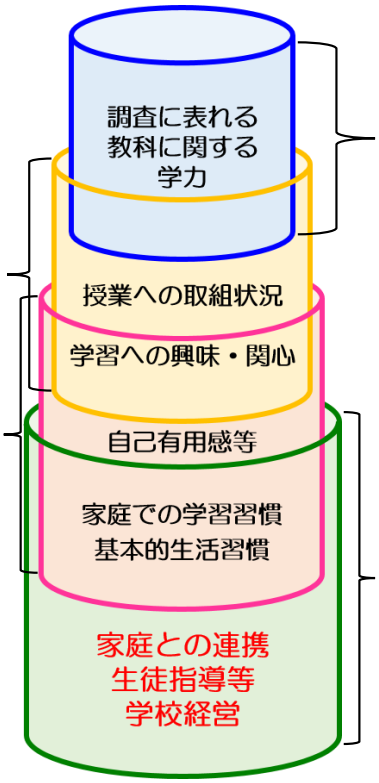
児童生徒の学習意欲、学習方法等に関する調査項目。

各学校には、児童生徒が学ぶ楽しさや成長の実感がもてるような学習の基盤づくりや授業づくりの充実が求められる。

児童生徒質問紙調査

児童生徒の学習環境、生活の諸側面等に関する調査項目。

各学校には、家庭・地域との連携・協力のもと、児童生徒の健全な成長を促す、日常的な環境づくり、生活づくりの充実が求められる。



教科に関する調査

児童生徒が身に付けなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容、実生活において不可欠であり常に活用できることが望ましい知識・技能等、併せて、知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等の調査。

各学校には、主体的・対話的で深い学びの実現に資する授業改善が求められる。

学校質問紙調査

学校の指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査。

各学校には、児童生徒の学力向上を下支えする取組や条件整備の充実が求められる。

上の図は、全国学力・学習状況調査から見える「学力に関するイメージ図」として作成したものです。この図が示すように、本県では、「調査に表れる教科に関する学力」だけに目を向けるのではなく、「教科への興味・関心」や「授業への取組状況」等の主体的に学習に取り組む態度や、「自己有用感」等の非認知的能力の育成や「家庭での学習習慣」等、トータルとしての学力・学習状況を見ていきたいと考えています。

そのためには、各学校においては、児童生徒が安心・安全に学ぶことができる環境づくりや、学力向上を下支えする取組や条件整備の充実が求められます。

この度、各拠点校の取組から、「授業づくり」と「組織づくり」について、効果をあげるポイントを整理しました。本リーフレットが、児童生徒の「行きたい学校・会いたい仲間・参加したい学び」に資する各学校の「日々の小さな挑戦」の参考となり、学力向上の確かな取組の推進につながることを願っています。

ふくおか教育月間イメージキャラクター「ミライル」
これからの社会をはばたく子供たちの「翼」をイメージした妖精です

福岡県教育庁教育振興部義務教育課　TEL（092）643-3910

※本リーフレットの他にも、以下のWebページに、学力向上の取組に役立つ様々な資料があります。

福岡県教育庁教育振興部義務教育課各種資料のページ
URL：http://gimu.fku.ed.jp/Default1.aspx

義務教育課各種資料　検索